

～第8回通常総会を開催～

去る6月13日（金）、ここ掘れ和ん話ん探検隊の第8回通常総会がアスモ3階で開かれました。会員40名中、24名（他に委任状6）が出席し、議長には遠藤芳昭氏を選出して会議がすすめられました。◎◎◎ 総会後の懇親会も盛大に行われました。



25年度の経過報告の主な点は

- ・小国町からの受託事業（自然観光体験・セラピー事業）が順調に進み、32回のイベントを企画実施してきたが宿泊を伴うメニュー作りやまちづくりの方向性を明確にできなかったなどの課題が残った。
- ・去年の8月10日～18日、私たちの活動を紹介する「パネル展」を初めて開いた。お盆の時期でもあり、立ち寄ってくれた方々も多かったが常駐体制がとれず反省点となった。ここ掘れ和ん話ん探検隊の活動や存在を広くPRできる機会なので今後、検討を要する。
- ・事務局を担っている「十三峠交流会」、以前から関わりをもってきた「萱野峠」「バードin 十三峠」その他の活動も積極的に推進してきたが、参加協力体制が一部の会員に偏りがちになってしまった。周知方法などに課題が残った。
- ・25年度の決算は、経常収支が少額ながら欠損となっている。

26年度の事業計画の主な内容

- ・平成19年、ここ掘れ和ん話ん探検隊を設立したときの「自然環境・地域資源を活用し、新しいまちづくり・地域活性化・新しい産業づくりのための事業を展開する」という趣旨を、会員全員で再認識しつつ、活動に積極的に取り組むことをお互いに確認すること。
- ・ここ掘れ和ん話ん探検隊の存在・活動の内容が町民に知られていないので、個人のみならず、企業などへも積極的にPRすべき。合わせて会員拡大・企業からの寄付などにも取り組み、財政の健全化も目指すべき。
- ・立ち上げようとしている「置賜自給圏構想」についても、NPOとして担う役割もあり、できることは積極的にやる。
- ・小国町から受託して推進中の2つの事業をまちづくりに繋ぐ対応を行う。
- ・定例の会員会議の開催・NPOの活動基盤の安定化・情報提供、周知などの基本活動を丁寧に進めます。
- ・今まで通り、連携・協働事業を展開します。
- ・役員の変更もありましたが、全役員が留任することとなりました。

今年度、小国町から受託している「森林体験観光推進業務」「森林体験観光推進員育成事業」についても、2人の職員を雇用して活動を始めました。

すでに、「白い森バードウォッチング」「サスペンス・ブリッジに挑戦」「ブナの森のいきもの探検隊」の3つのイベントが行われました。6月28日には、「十三峠トレッキング」の第1回目もスタートします。

今回は、2つのイベントの様をお伝えします。

「サスペンス・ブリッジに挑戦！」無事終わる



5月31日、朝日岳へ行く途中の吊り橋を渡るとい企画が開催されました。

このイベントは昨年までは天候が悪く途中で断念するということがありました。今年は無事に晴れ、目標の橋まで行くことが出来ました。参加者の皆さんも最初はおっかなびっくり渡っていましたが、全部無事に渡れてよかったと帰るときは笑顔で言っていました。

今回の講師は山のベテラン井上邦彦さん。安全面では最大の配慮を下され、女性や子供達にはザイルで確保するなど危険を回避する方法を駆使して下さいました。これからのイベントでの安全管理に活かせる経験になりました。

「ブナの森のいきもの探検隊」で調査活動

森林セラピー基地として登録されている温身平。今回はそこに住む「モリアオガエル」などいきものの生態観察をするイベントを6月8日に行いました。これは今年度からの企画で、全国的に絶滅の危機に陥っているモリアオガエルやそれらが生息する池周辺のいきものを観察・調査するという企画。今回のイベント

に参加された方々もぜひこの活動を続けてほしい、年間で定期的にしてほしいなどの意見が寄せられとても興味が惹かれるイベントになったと思います。今後もこういったいきものの生態に関わるイベントを企画していきたいと思いました。

